

## JOTA-JOTI Plaza 2021 に協力を行いました

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟  
東京都支部 青少年科学対策委員会  
埼玉県支部 青少年育成委員会

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟東京都支部及び同埼玉県支部(以下、JARL 支部)は、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟(SAJ)の依頼により、「JOTA-JOTI Plaza 2021」の東京会場運営協力を昨年引き続き行いました。当日は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、多くのボーイスカウトの子どもたちをはじめ、指導者、保護者の方々が参加をされました。

ボーイスカウトのアマチュア無線プログラムの一つである「ジャンボリー・オン・ジ・エア(JOTA)」に参加する目的のイベントとして、「JOTA-JOTI Plaza 2021」は、本年は JARL 理事会承認のもと、JARL が各会場で協力する形で実施しております。そのため、高尾会長も東京会場を訪問してボーイスカウト活動の様子を見学しました。

なお、本年から東京都だけでなく大阪府、愛知県でも開設して、3つの会場で行っております。東京以外の会場においても、現地の地方本部、支部、登録クラブなどが運営協力を行っております。

このイベントでは、2020年春の法令改正等により実施可能となった、無資格者がアマチュア無線の交信を体験できる無線局(以下、体験局)を開設して、無線運用いたしました。

スタッフも昨年以上に集まり、現役のスカウト(中学生～大学生)も運営を手伝いました。



## ○イベント概要○

実 施 日:2021年10月16日(土)、17日(日)

場 所:東京・スカウト会館(東京会場)

参 加 人 数:のべ160名(スカウト\*94名 指導者、保護者等66名)(主催者発表)

※小学3年生~高校生のスカウト加盟員

主 催:(公財)ボーイスカウト日本連盟

協 力:(一社)日本アマチュア無線連盟、(一財)日本アマチュア無線振興協会、  
アイコム(株)、日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ(JA1YSS)、アツデン(株)

## ○会場設営○

東京会場であるスカウト会館は、普段からアマチュア無線局を置いてあるわけではないので、前日のアンテナ仮設からスタートしました。

昨年も同じ場所で設営していることもあり、JARL 及びボーイスカウト双方のスタッフが協力して、非常にスムーズに設置することが出来ました。

屋内では、机や椅子など、コロナウイルス対策で密にならないような配置を考えて安全には十分に配慮を行いました。



## ○JARL 支部担当セクション○

昨年に引き続き、アマチュア無線に関する学習の部分を担当しましたが、本年からは、受付でのモールス打鍵体験も協力しています。

### <モールス打鍵体験>

モールス符号で名前を打つ練習をしました。電鍵を触ることそのものが初めてという子どもが殆どなので、まずは打ち方を教えています。

その後、実際に名前を打つ練習をして、その次のセクションとなる「学習」で、実際に支部役員

が打鍵の補助をしながら、受信しました。

実際に名前が伝わったら会場内では驚きの声が聞こえ、打った子どもたちは喜んでいました。受信側は、支部役員のほか、高尾会長も挑戦しました。

打つ側は伝わるのか緊張しながら、聞き取る側は初めて打つ符号の音に緊張しながらやりましたが、全員が受信することが出来ました。

体験者の多くは、体験運用だけでなく、このモールス体験が良かったといった声も少なくありませんでした。



#### <アマチュア無線の学習>

学習では、電波の事や通信の歴史などを勉強しました。また、アマチュア無線の体験運用をこれから行うので、そのアドバイスを説明しました。

スライドによる説明だけでなく、実際にラジオを聞いて、建物では電波が伝わりにくいため聞こえにくいことの体験や、通信の歴史として、ボーイスカウトでは科目の一つとなっている手旗を披露する一幕もありました。



参加者は小学生から高校生までいるので、それに合わせた内容で進める必要があるので、柔軟に対応をして説明をしました。

このセッションは、アマチュア無線という未知のことをなるべく子どもたちに知ってもらい、これから自分たちがやることを見て、このあとの体験運用を実のあるものにする狙いがあります。体験運用から資格取得に結び付けて、後述の技能章取得などにつなげていきます。



### ○会場の様子○

#### コールサイン 8J1 JOTA (記念局と併設)

今年は、例年よりも多くの来場者がいましたので、体験運用も昨年と異なり430MHzだけでなく、50MHz、144MHz、1200MHzの各FMモードでも運用を行ないました。

また、D-STAR アクセスポイントも稼働させて、各スカウト局とも交信を行いました。

さらに、スウェーデン スtockホルム在住の田原氏(SA0UNX)が D-STAR の交信相手を受けてくださり、海外にお住まいの方とお話することも出来ました。



体験交信は、先述の田原氏ほか数局以外との交信では、会場関係者が相手を行いました。これは、内情をよく知る人が相手をする事で、体験者の目線に合った交信ができ、体験者もリラックスして臨める狙いからとのことです。常に体験者の気持ちを考えて行うというスタンスは、昨年の経験を受けての実行に移したことであります。

交信内容は、ボーイスカウト活動の事や学校生活の事などを話題にしました。人数と時間の関係上、5分程度しか交信できませんでしたが、皆さん喜んでおりました。また、交信相手役が

らは、手書きのQSLカードを即発行して、手渡しをして記念に持って帰っていただきました。

なお、この体験交信の指揮者及び交信相手役には、支部関係者も行いました。

また、冒頭の通り、この体験イベントには、大人だけでなく、現役のスカウトも運営に携わりました。大人だけでなく、次世代を担う若者が運営側にも入ることで、継承が行われ、より良いものとする事は、我々も見習うべきことだと感じております。

交信の最後には、ボーイスカウトがめでたい時の掛け声である、「弥栄」を言い交信を締める場面も見られました。弥栄を広辞苑で調べると、「繁栄を祈って叫ぶ声 ばんざい」とのことです。

体験運用の間には、PR を兼ねて通常交信も実施しております。



### ○ボーイスカウトとアマチュア無線○

ボーイスカウトには、専門的な技能を身に着けた証として、技能章と呼ばれる章が授与されます。アマチュア無線を使った技能章(無線通信章)もあり、取得条件として次の項目があります。

- 1.アマチュア無線技士の資格があること。
- 2.和文通話表により、電文を送話できるとともに、欧文通話表を用いてアルファベットを言えること。
- 3.国内 10 局以上の交信記録と交信証(QSL カード)5 枚以上を提示すること。

注: 社団局発行のカードには、従事者名(オペレーター)が明記されていること。

(出典:ボーイスカウト日本連盟 HP)



有資格者のスカウトは、この技能章取得を目指しております。今後もアマチュア無線運用をして、さらなる技能向上に期待します。

#### 【参考】

59.無線通信章 - 技能章

<https://www.scout.or.jp/member/skill-musen-tsushin/>

## ○最後に○

体験局運用では、近所の無線家の方々から海外にお住まいの方まで交信するなど国内外のアマチュア無線家の御協力もありまして、子どもたちを楽しみながら学んでもらう時間を提供することができました。厚く御礼申し上げます。

JOTA-JOTI Plaza 2021作業チームでは、昨年と同様にイベントが安全に出来る方法を模索しながら様々な対策を行い、事故なく終了させることができました。

JARL と SAJ は、活動内容も目的も異なりますが、次世代育成の観点では共通するものがあります。お互いに理解しあい、今後も健全な関係を築いて参ります。

JARL 支部では、今後もボーイスカウトと連携して、体験運用などアマチュア無線に関する活動に協力していきます。

---

### 【解説】ジャンボリー・オン・ジ・エア (JOTA)

世界スカウト機構が主催する公式国際行事で、スカウトがアマチュア無線行事に参加し、電波を通じて国内各地や外国のスカウト仲間と交信し、お互いを理解し、知識と友情を深めることを目的とします。

1957 年イギリスで行われた第9回世界ジャンボリー (スカウティング 50 周年記念ジュビリージャンボリー) でアマチュア無線のプログラムが提供されたのが始まりです。毎年 10 月の第3金曜日～日曜日の 72 時間運用されます。

(出典:ボーイスカウト日本連盟 HP)

### 【参考】

ボーイスカウト日本連盟 JOTA-JOTI 2021 公式ページ  
<https://www.scout.or.jp/member/jota-joti-2021/>

以上